

# 「ぶんぶんひろば」における授業の実践 「手作りおもちゃで一緒に遊ぼう」 (学芸学部子ども学科 保育実践演習)

## 1. 授業の目的

保育実践演習は、保育士資格取得のための必修科目であり、子ども学科では4年次後期に履修することになっている。この科目では、これまで大学で学んだ知識と実習での実践を基に、保育実践に関する具体的な力を身に付けるための仕上げる授業となる。

今年度はシラバスの中に、ぶんぶんひろばに訪れる地域の未就園児親子と一緒に「手作りおもちゃで遊ぼう」という授業内容を位置づけ、グループごとに身近な材料を使って遊具を作成したりダンス等を考えたりして、ぶんぶんひろばの親子と実際に関わりをもつことができた。この活動を通して、3歳未満児の発達をふまえた遊具やダンスを考えたり工夫して制作したりすることや、実際に一緒に遊ぶことで子どもの興味関心を知り、支援の方法を学ぶことを目的とした。

## 2. 活動のねらい

- ・ 3歳未満児の発達を再確認する
- ・ 子どもの興味関心にそった遊具を考え、身近な材料を工夫して作成する
- ・ グループごとに遊びの教材研究や作成練習等をしながら協力して完成させる
- ・ ぶんぶんひろばの親子と一緒に実際に遊ぶことで接し方について学ぶ

## 3. 授業の流れ

- 第1回 3歳未満児の発達や興味関心について振り返り、再確認する。また、安全についての配慮点について明確にする。
- 第2回 ダンスや手作りおもちゃの内容を考える内容ごとにグループに分かれて、材料や作成方法を考える。
- 第3回 グループごとに作成したり、ダンスの練習をしたりする。
- 第4回 グループごとにぶんぶんひろばで活動する。
- 1日目 12月3日(火) GB1グループ
- 2日目 12月10日(火) GB2グループ
- 3日目 12月13日(金) GA1グループ
- 4日目 12月20日(金) GA2グループ
- 各グループ10～15名が参加した。

## 4. 準備の様子

ダンスは、「ラーメンつるつる」「パプリカ」等日頃から聞きなれた曲やYouTubeで人気のあるダンス等を選曲して、3歳未満児でもできるように動きが簡単になるように工夫することや、ポンポンやコスチュームを作成して楽しく踊ることができるよう準備を進めた。

おもちゃは、「段ボールキャタピラ」や「ふわふわプール」「アンパンマン的あて」等で体を動かして遊ぶことのできる物と、「音の出る積み木」「にぎにぎ棒」「キラキラペットボトル」「ポトンポトン落として遊ぼう」「洗濯ばさみ動物」等、手先を使って遊ぶ物の両方に分かれて作成した。



写真1 洗濯ばさみ動物を制作中の様子



写真2 アンパンマン的あてを制作中の様子

作成にあたっては、大きさや手ざわり、子どもが興味関心をもつような外観、何度も繰り返し遊びを楽しむことができる内容、安全であるか等を思考錯誤しながら取り組んでいた。また、進捗が遅れているグループを手伝ったり、互いに意見を述べあったりなど、保育の現場に就いた時にも役立つと思われる姿が見られた。

## 5. 当日の様子

のべ4日間にわたりぶんぶんひろばで活動を行った。その様子について写真で紹介する。



写真3 コスチュームをつけて「やさいのダンス」



写真4 段ボールキャタピラ



写真5 段ボールの箱積み木



写真6 キラキラペットボトル



写真7 遊ばせながら保護者との会話

## 6. 学生の振り返りシートより

- ・子どもたちは、私たちの考えとは異なる遊び方をする姿を見て、想像していないことも起こるということを実感した。
- ・おもちゃの楽しさをどのように伝えるかが大切だと思った。ただ「やって見せる」だけでなく「〇〇ちゃんはこれ好きかな？」と子どもの気持ちを引き出す言葉がけが大切であることが分かった。
- ・3歳未満児の子どもたちと関わる時は安全第一であるということを改めて学んだ。
- ・3歳未満児は月齢が少し違うだけでも遊び方が違い、成長の差を感じることができた。
- ・子どもを保育することの大切さを見直す機会となった。就職するまでに、子どもと触れ合う時間をしっかりと設けられたらよいと思った。

## 7. まとめ

実習では、保護者の方と話す機会はなかなかもないが、ぶんぶんひろばでは、子どもたちだけでなく保護者の方とも関わることのできる貴重な体験となった。  
(文責：合原 晶子)